

どんな辛い道でも前に進む (中編)

株式会社シンニッタン 結城工場

村上 ウィリアム



私の父は農業（トウモロコシ畑）を営んでおり、幼少期の頃は父の手伝いをしていました。休みの日は、よく父と川へ魚を釣りに行きましたが、ある日、家族に行き先を告げず、一人で釣りに行ったところ、父にこっぴどく叱られたことがありました。

ブラジルの川にはピラニアが生息しており、一部、水深が深いところもあるため、子供が一人で遊ぶには、危険だからです。



家族写真（右から二人目が筆者）

1995年、18歳のときに来日しました。

当時の日本は景気がよく、出稼ぎ目的で来日しました。

来日後、コピー機の梱包やチョコレート工場等、様々な仕事を体験しましたが、それまでは父の仕事の手伝いぐらいしか働いた経験がなかったため、非常に苦労しました。

特に日本語の習得が大変でした。職場で毎日、日本語を一つ教えてもらい、帰宅してから辞書を引くことで、少しずつ習得していきました。

苦労があった半面、日本の文化は何もかもが新鮮で、お祭りや花火、花見など、とても興味深いです。

また、日本はとても治安が良く、マナーの良い人が多いと感じます。バスの降車時には、降車する人のために、皆が示し合わせたかのように通路を開けたのは驚きました。

日本食も大好きです。特に好きなのはお寿司で、ハマチやマグロが好物です。ただ、納豆だけは、未だに食べられません（苦笑）。



花見

来日後、アルバイトや派遣など、職を転々としておりましたが、子供が生まれたのを契機に、株式会社シンニッタン 結城工場で働くことになりました。当初はアルバイトとして働いておりましたが、働きぶりが評価され、正社員として15年、この会社で働いています。

仕事の内容は、金属製品の溶接や、塗装、修理等を任されています。金属加工の仕事は初めてだったので、非常に苦労しました。特に溶接は、その日のコンディションによる各種設定や、ビードの美観など奥深いものがあり、日々勉強のつもりで仕事に励んでいます*。

また、同僚たちは皆やさしく、職場の雰囲気が良いため、お陰様で長くこの仕事を続けられています。

(5月号に続く)

* 同僚からのコメント：なんでも卒なくこなしてくれる、替えの効かない存在です。